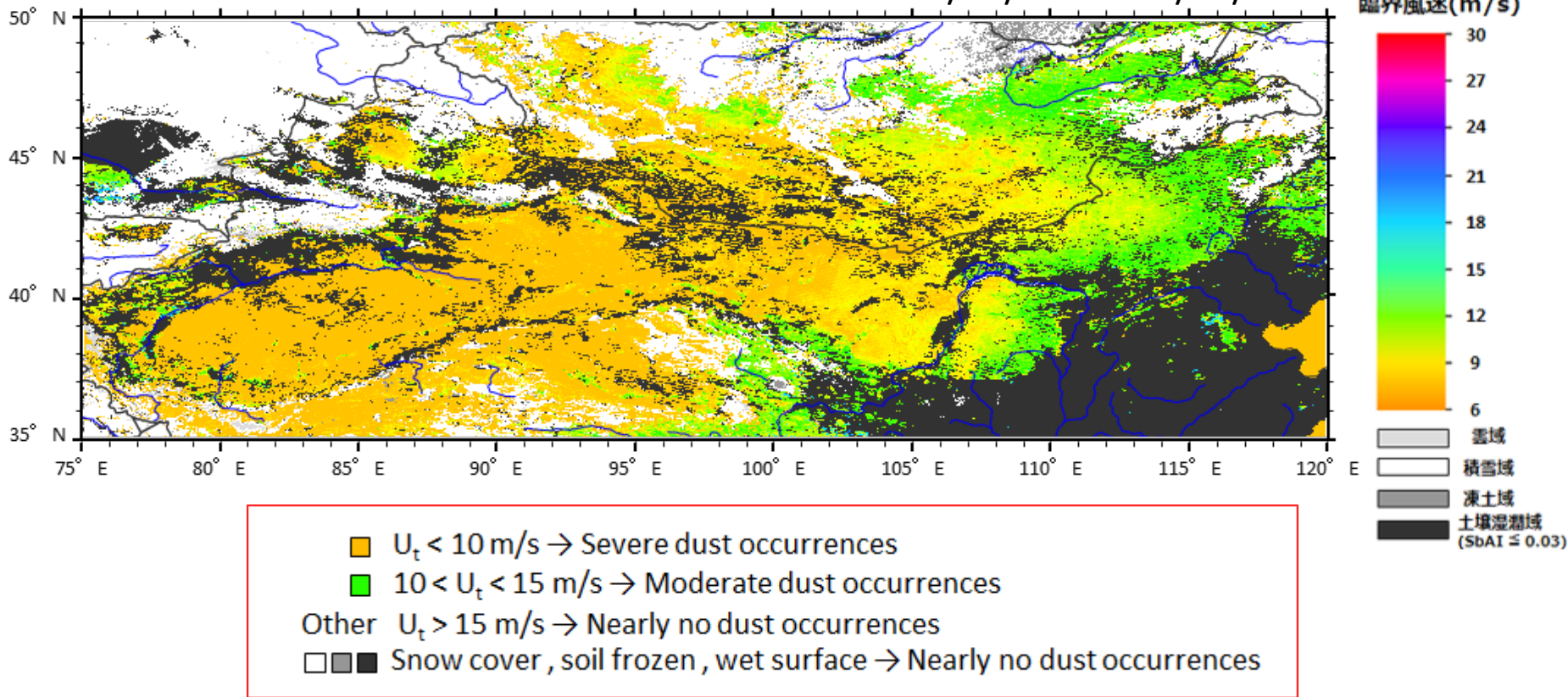


黄砂ハザードマップの使用例

2015/03/06 - 2015/03/21



上図は、2015年3月について、黄砂の発生しやすさを臨界風速で見たものです。臨界風速というのは、黄砂が発生し始めるときの風速のことで、臨界風速が小さいほど黄砂が発生しやすいことを示します。例えば、モンゴル南部ではそのほとんどの地域が、風速が6~10m/sのときに黄砂が発生する可能性があることを示しており(黄色の部分)、発達した低気圧が通ればいつでも黄砂が発生する可能性があります。白で示した積雪域、濃い灰色で示した凍土域、黒で示した湿潤域では、黄砂は発生しないとしています。

ハザードマップの作成方法

黄砂発生ハザードマップは、積雪、凍土、表層土壌水分、植被率の影響を考慮して、すべて衛星データのみを用いて計算しています。まず、積雪、土壌表層の凍結(地表温度が0°C以下)がないとするならば、黄砂は発生、次に土壌水分がある閾値以下になれば黄砂は発生、最後に、植被率の影響を考慮して臨界風速を計算し、マップを作成しています。植生が多くなるほど、黄砂は発生しづらくなります。積雪、凍土、表層土壌水分の影響で黄砂が発生しないと考えられるエリアにはマスクをすることで黄砂が発生しづらいことを表現しています。